

科目名	人文学講読演習Ⅱ 2－2					単位	2.0
担当教員	沼波 政保						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	3223

●授業のテーマ

中世隠者文学Ⅱ 『徒然草』

●到達目標

中世隠者文学のうち、『徒然草』の内容を理解することを通して、人間の精神的営為の表出である文学の感動・美がどこに存するかを知る能力を得、さらに日本中世文学の特色を知る。

●学習内容(授業概要)

言うまでもなく、文学は人間の精神的営為の表出である。したがって、文学を享受するという事は、そこに表われている人間心理を享受することである。当然、そこには時代背景が多分に影響している。

平安末期から中世にかけては、荘園制の崩壊、貴族の没落・武士の抬頭、天変地異等によってそれまでの価値観が崩れ、我が国史上未曾有の一大転換期であった。そのような時代背景の中、多くの隠者を生んだが、彼らが草庵にあってものしたのが隠者文学（草庵文学）である。

『徒然草』は吉田兼好によって著された作品であるが、そこには兼好という一人の人間の多様な精神的営為が語られている。

先が見えず混迷の現代、もう一度足元をしっかりと見つめ、人間とは何か、私とは何かを考え、私たちの生に何が最も大切なのかを、この講読を通して人間の精神的営為を考察しつつ、考えていきたい。

●学習内容(授業計画)

- 第1講 序説
- 第2講 吉田兼好略伝
- 第3講 「栗を食ふ娘」
- 第4講 仏道精神①
- 第5講 高僧批判
- 第6講 「ひたふる」
- 第7講 無常観
- 第8講 「生を楽しめ」
- 第9講 人間性肯定
- 第10講 精神的自由
- 第11講 自然観
- 第12講 矛盾
- 第13講 「あやしうこそものぐるほしけれ」
- 第14講 『徒然草』の感動
- 第15講 結講

●準備学習・事後学習の内容

前回の授業内容を理解した上で授業に臨む。

毎回の授業後には、授業の内容をノートに整理し、テーマについて理解しておく。

●成績評価方法・基準

授業中に行なう臨時テスト（2～3回）の成績（70%）に受講態度（30%）を加味して評価する。

●テキスト（必携）

適宜、プリントを配布する。

●参考文献／その他

適宜、紹介する。

●履修上の注意

「人文学講読演習Ⅰ 2－2」を受講していることが望ましい。

主体的態度で受講することを望む。遅刻を慎み、必ずノートを取ること。ノートを取らないとテストに対応できない。